

平成 26 年度第 1 回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 平成 26 年 9 月 22 日（火） 13:30～15:00
兵庫県民会館 7 階「亀」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 1 6 - 3
- 2 出席者
(委員 11 名) 平川委員 田中委員 寺見委員 尾山委員 小山委員
平松委員 増田委員 濱田委員 福井委員 東野委員
入江委員
(欠席：山口委員 松本委員 三木委員 田名網委員)

(幹事 10 名) ○竹村幹事 ○小川幹事 ○関幹事 西口幹事
○横山幹事 ○石橋幹事 ○中野幹事 ○仲井幹事
廣瀬幹事 船田幹事
(○印は代理出席)

(教育委員会) 高井教育長

(事務局) 山根副課長 大淵副課長 北中主幹 友定指導主事
- 3 開会あいさつ 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介 司会者（北中主幹）呼名による委員紹介
及び紙面による幹事紹介
- 5 署名委員の指名 署名委員は、平松会長の指名により、次のとおり決定された。
濱田委員 増田委員
- 6 前回議事録の報告
平成 25 年度第 2 回スポーツ推進審議会における報告事項（平成 26 年度事業概要）
及び審議事項（平成 26 年度スポーツ振興団体に交付する補助金、兵庫県スポーツ推進
計画の取組を進めるための方策）について大淵副課長が説明し、承認された。
- 7 報告事項
(1)平成 26 年度の事業実施概要について
① スポーツ振興課に関する事業概要について、船田スポーツ振興課長が報告した。
② 体育保健課に関する事業概要について、廣瀬体育保健課長が報告した。
③ 障害者支援課に関する事業概要について、近藤障害者支援課副課長が報告した。
(2)「兵庫県スポーツ推進計画」の状況及び平成 26 年度の取組について、大淵副課長が報
告した。
- 8 審議事項

(1) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

大淵副課長より、「兵庫県スポーツ推進計画」の実施計画の目標の達成状況を報告し、特に目標を達成できなかった事項の今後の取り組みの方向性について、具体的な意見をいただいた。

9 その他の事項

◇ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項(1) 平成26年度の事業実施概要について」

【委員】

関西ワールドマスタースゲームズに関して、スポーツコミッションの発起人であり関西経済同友会の大林さんに理事として出ていただいた。関西広域行政機構の議長に井戸知事が就任された。本年7月第1回理事会の議長が堀さんから加藤さんに変更された。関西経済同友会の中に19, 20, 21委員会を作り、2019のラグビー、2020の東京オリンピック・パラリンピック、2021の関西ワールドマスタースゲームズに向けて動き出している。経済界から、関西ワールドマスタースゲームズに対して、協力できる体制が出来ている。

【委員】

多くのスポーツイベントが行われているが、全県に根ざした地道なスポーツ振興は行われているか。スポーツ推進計画の中にも県民のスポーツ実施率を高めるといのが大きな課題となっている。地域で行う、歩行・体操など個人でも行える運動が、県の実施率を支えている。どんな地道な取組を県は取っているか。

【事務局説明】

小学校区単位でスポーツクラブがある。それらを利用して身近なところでスポーツを行ってもらおうと考えている。また、イベントの開催やスポーツクラブの大会、今年度から関西マスタースポーツフェスティバルという冠を、これまで行われていた既存の大会につけ、誰でも参加できるオープン型の大会を開催し、スポーツを行う機会を増やす取組を行っている。スポーツ推進計画で定義する「スポーツを実施する」ということは、単に一般的概念としてのスポーツをすることだけでなく、日常の生活活動、健康を意識した身体活動も含めたものである。そういった観点で、成人のスポーツ実施率を週1回以上の75%に高めたり、未実施者を0にしようという目標を掲げスポーツの推進を行っている。それから、健康を意識した動きを行ってもらうために、健康増進課とも連携して取り組んでいる。単に体を動かすということだけでなく、健康を意識した動きも行っていたらよい、様々な場で啓発をしている。また、ひょうご De スポーツ推進月間として、街頭キャンペーンを行うなど、全県くまなくというところまではなかなかいかないが以上のような取組を行っている。

【委員】

既存のスポーツを行うということでの目標達成は厳しいと思う。身近なところで個人でも体を動かせる環境をつくり、運動することが大切であるとする。

【事務局説明】

健康体操の推進を事業化している。県で一つの健康体操を普及させていこうというのではなく、体操を実施する人を増やしていこうという取組を市町や各団体でおこなっている。県でそれらの情報を集め、ネット等で配信し身近なところで参加していただけるよう取組を行っている。今後も地域に根ざした健康体操の推進を図っていきたいと考えている。

【委員】

昨年 12 月に経済産業省に行き、世界スポーツ用品工業連盟で議論されていることとお話した。アメリカでは、1965 年から 2009 年は、32%が運動をしておらず、2030 年には全国民の 46%が運動していない。中国では、91 年から 2009 年は、45%が運動をしておらず、2030 年には 51%が運動をしていないと予想される。運動しない人をどう運動させていくかが課題である。次に、アメリカの保健省が、3 歳児から運動をやってプラスのスパイラルを作る運動を行っている。世界スポーツ用品工業連盟でもフィジカルアクティビティー委員会を作り、この取組を推奨している。今後日本において、文部科学省、内閣府と協力して何か良い指針が出ることを期待している。

【委員】

国や県では、昔からユニバーサルという言葉がよく使われている。10 月のシンポジウムでもユニバーサルについて話をする。スポーツへの参加のキーワードに高齢者・子ども・障害者がある中、障害者がうまく絡んでいけないと思う。たとえば神戸マラソンに障害者の方は車いすで参加したいという思いがあるが参加できていない。篠山マラソンには、車いすの方が参加した実績がある。今後、車いすで神戸マラソンに参加できる可能性があるのかどうか。また、三者がどう共同体を作りながらユニバーサルなスポーツ環境をつくっていくかを含めて神戸市で検討していただきたいと思う。

【事務局説明】

篠山では、車いす参加の全国大会がすでに開かれ定着している。現時点では、役割分担ができていないのではないと思う。同一大会で車いすの方と 2 万人のランナーと一緒に競技するときには生じる問題や、終盤の急勾配のコース設定の問題など多くの課題があると思われるが、神戸マラソンに車いすの方も一緒に走っていただけるかどうかについて今後研究していきたい。

(2) 審議事項「兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

【委員】

基本的にパーセンテージがついているものすべてにおいて、性別年齢地域内の格差の影響を受けないよう調整され出された数値か。

【事務局説明】

はい。

【委員】

達成状況の悪い項目のひとつに、成人のスポーツ実施者の増加がある。スポーツをしないという人をどうスポーツに結びつけていくのかという視点が必要だと思う。県では、スポーツ推進計画をつくり、立派に行われているが、これが各市町になるとどの程度浸透しているのか、また市町そのものがどの程度実施率を高めていこうとしているのかが見えてこない。私も市のスポーツ関係の会議に出させていただいているが、そのような話はほとんど出てきていない。それぞれの市町でもスポーツ実施率を高める目標や計画が大事ではないか。次に、スポーツを始めるのにきっかけづくりが大切だと思う。スポーツ推進委員・スポーツクラブ 21、県体育協会などリーダーがきっかけをつくっていくが、それぞれのリーダーたちにスポーツ実施率を高めていくという意識付けが大事ではないかと思う。何かきっかけがあればスポーツに取り組んでいくことが期待できる。

【委員】

小学校以上の結果の報告はあったが、幼児の親子遊びのプログラムを作った成果が分かれば教えていただきたい。

【事務局説明】

親子遊びのプログラムをスポーツクラブで実施していただくようお願いしており、平成 25 年度の実績は 66.8%と 2 / 3 のスポーツクラブで行われている。運動の最初のきっかけは、幼児期にお父さんお母さんと一緒に行うということがいわれている。親子で運動を楽しみ、運動が好きになってもらうよう取り組んで欲しい。

【委員】

運動する人としらない人が二極化している。小学生でもそれが顕著に表れている。全くやらない人への動機付けとして、スポーツと健康の意味合いを理論的に伝えていくことや、保健所などに、運動の仕方・運動ができる施設・イベントなどの紹介があれば運動するきっかけになる。次に、筋肉・骨・関節・軟骨・椎間板といった運動器のいずれかもしくは複数に障害が起き、歩行や日常生活に何らかの障害をきたしている状態をロコモシンドロームというが、子どもの 1 割から 2 割にしゃがめない、片足立ちできない症状が見られる報告がある。文部科学省で、来年よりそういった検査も身体測定のとくに行うことを検討していると聞いている。よって、子どもたちには運動をすればよいというだけでなく、そういった観点もふまえて多様な運動をさせることを合わせて考えていただければと思っている。最後に、運動には栄養がとても大切で、運動を行うときに栄養を取っていないとエネルギーの補給ができないし、筋力や持久力などの運動能力を高めていくことは難しいとされている。運動と栄養は表裏一体であるという知識を持って運動をしてもらうことも大切だと思う。

【委員】

推進計画にある「全県域を対象としたスポーツ大会の参加選手数の増加」指標の数字は、全国障害者スポーツ大会につながる予選大会の参加者数の数字である。現在、障害者の方は、健康や楽しみで運動を行う方が増えているように思う。指標をどこにターゲットをおくのかで数字も変わってくる。次に、スポーツクラブ 21 に関して、計

画の目標なり、取り組みがスポーツクラブの役員の方まで届いていないように思われる。情報発信のしかたが大事ではないか。次に、拠点について、施設づくりにおいては、新たにつくるということではなく、改修の時に一工夫してバリアフリーをきちっと施し使いやすい施設にしていくことを進めてはどうか。それから、指定管理者制度が導入されてから、ある地域では障害者スポーツ教室がなくなったという負の状況がある。仕様書の中に、障害者スポーツのプログラムを必ず入れるというような具体的方策をとることで数値が上がることを期待できる。

【委員】

県内の取組に関して、計画、推進状況の説明があった。この先、達成率をどんどん高める取組を進めると思うが、ここまできるとなかなか一足飛びに伸ばしているのは難しいと思う。一つ統計として興味があるのは体型についてだ。体型とスポーツ実施には関係があるのではないか。小中高生は、一時期「ぽっちゃり型」が少し増えている時期もあったが、最近は県の取り組みや学校体育、部活動などしっかりした取り組みが行われているので減ってきたと感じる。将来大人になったときに、より健康的に過ごしたり、より健康で長生きをするために、スポーツを実施することと食生活をどのようにしていくかということが大事である。諸外国との統計と照らし合わせながら、さらに本計画を推進していただきたいと思っている。

【委員】

重点目標1に関して、目標には若干達成できていないが7割以上は達成しているという状況である。中学校では、運動部活動による高い実施率とあるが、決してそうではないだろうと思う。中学生は80%から78%、小学生に至っては50%このあたりは、7割以上を達成しているからいいとは思われていないだろうか。少し深刻に受け止めるべきではないかと感じている。

【委員】

神戸市の小学生の運動実施状況は二極化している。運動能力テストでは、握力・ボール投げにおいては10%以上落ちている。運動を行っていない者が増えてきているため、運動能力の低下や骨折しやすい体など悪影響が出てきている。運動をすることにより基礎体力の向上や健康の増進に取り組んでいくことが大切だと思う。次に、スポーツの実施率について、県と同様に神戸市も「週1回運動を実施していますか」という質問をしている。実施しているという人が5割を切っている。運動の定義をウォーキング等というようにもっと幅を広げ質問すると数値が変わってくるのではないかと思う。

【委員】

成人の運動の未実施という項目が、一番の問題ではないか。この項目が最後まで課題として残っていく項目ではないかと考える。運動と健康のように何かメリットがあることと結びつけて推進していかないと達成できないのではないかと分析する。また、中高生の部活動加入率が低下するということは、将来子どもが親になったとき、その子どもが運動をしないということにつながっていくおそれがある。注意して見ていく必要がある。次に、ジュニアの入賞者数について、今回の調査では入賞者数が減少し

ている。これは、中学は県内の学校であるが高校は県外へ行ってしまうということで入賞者数が減っていることが考えられるのではないか。原因が分かれば、対処の仕方も考えられると思う。

【事務局説明】

委員のご指摘のように、高校で他府県へ流出しているということもある。協会の方にそういう観点もふまえて未来のスーパーアスリート支援事業等の事業を利用し、強化事業の提案をしていただきたいと思っている。

【委員】

現在、日本及び世界でどういったことが議論されているかをお話しさせていただく。まず子どもの運動実施状況は、親が運動を行っている子どものほうが、運動を行っているという回答が顕著に高くなる。また、10歳までに運動をやっていたら継続して運動が行われている。次に社会的な問題については、人口減少による労働者不足・寿命が80歳・医療費は上昇ということで政府がこれらについて対処しようとしている。ゴルフ業界は2015年問題といっている。定年が65歳になって、ゴルフをする機会が減ってしまう。介護医療問題は2025年問題といっている。75歳以上が、4人に1人となりケアする人がいない。将来に向けて、子どもたちに運動をさせないといけないと考えている。しかし、子どもたちの運動を妨げる最大の原因はインターネットだ。起きている間に、インターネットをする時間が長くなり運動をする時間がなくなっている。また、戦後つくられたスポーツの大会が現代にそぐわなくなっていることや、指導者が少なくなっていることを改善していかなければならないと思う。こういった様々な問題がある中、県では目標を立て、実情をリサーチして、数字を出しているという取り組みはすばらしい、まさに「スポーツ立県ひょうご」だと思う。一番議論すべきは、オランダは学校体育が0だということ。日本は、小学校から高校まで運動を最低限学校体育の中で行っている。よって、オランダの実績値は兵庫県の半分以下だ。日本の学校において運動を支えている、学校体育とクラブチームのそれぞれがうまく両立する方法はないか考えている。県のこれまでの取り組みは本当にすばらしいと思う。

【委員】

親子遊びのプログラムの実施の項目の数値は目標を達成しているのに、学齢期において発達が進むにつれてどんどん数値が下がっていくのか疑問である。次に、生涯スポーツを考える上では必ず人間関係が関わってくる。どういった人間関係で運動が行われているかということも合わせてみていくと良いと思う。スポーツの実施率についてはスポーツについて興味がなくなったというよりも、人間関係の断裂が一方で引き起こしているのかもしれないと考える。

【委員】

目標を達成していないという項目もあるが、本県は他府県と比べて全般的に高い方にあるのではないかと思う。また、県の施策が末端まで届いていないところがあるのではないかと感じた。

【事務局】

本日いただいた意見を参考にし、来年度事業計画の企画・立案等への反映を検討していく。

10 閉会あいさつ 船田スポーツ振興課長

11 閉 会

署名委員

氏名 _____ 印 氏名 _____ 印